

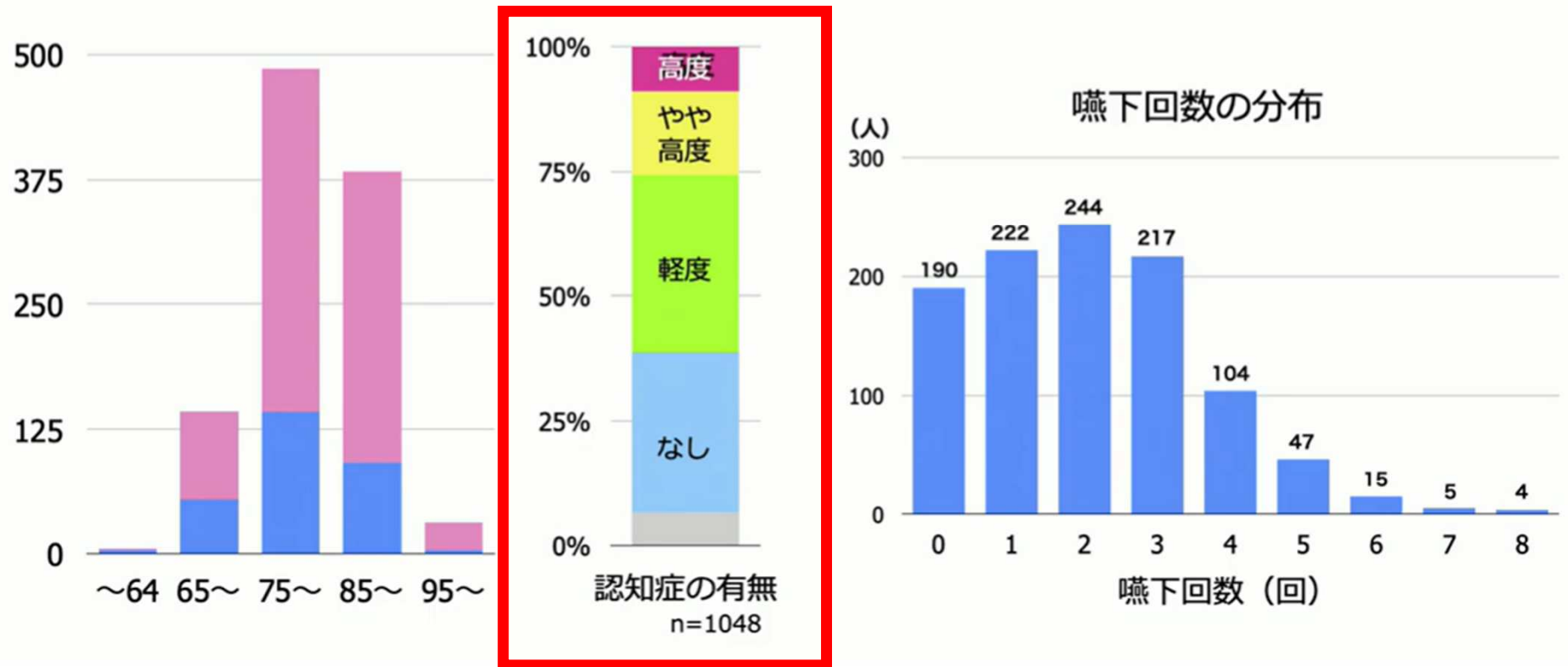
➤ 半数以上が認知症であるが、RSSTの検査可能です

反復唾液嚥下テストの実行可能性

反復唾液嚥下テストは施設入所高齢者の
摂食・嚥下障害をスクリーニングできるか？
Can the Repetitive Saliva Swallowing Test Be Used as a Screening Method
for the Elderly Patients with Dysphagia Treated in Nursing Homes?
郷 漢忠、高 律子、上野 尚雄、原田 浩之
Kanchu TEL, Ritsuko KOH, Takao UENO, Hiroyuki HARADA

老人保健施設16，特別養護老人ホーム1施設

施設入所高齢者 1098名中1048名 (95%) で実施可能

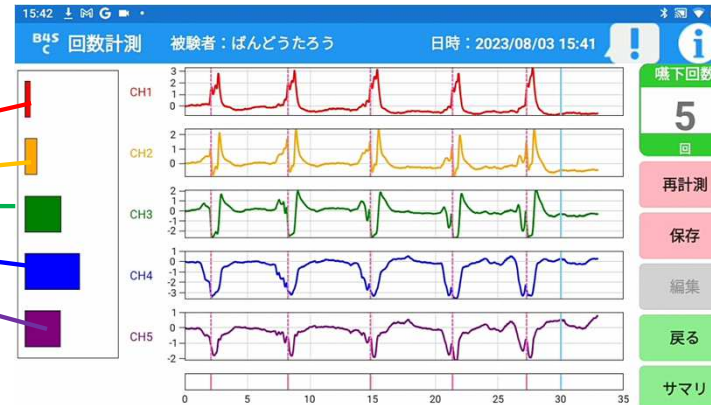


第25回日本言語聴覚学 ハンズオンセミナー「嚥下運動モニタB4S」の評価と訓練における活用方法と有用性」

嚥下回数、嚥下タイミングは、嚥下時の喉頭挙上に伴うセンサの伸長量により判定しており、当て方問わず、測定開始時のセンサ装着状態を保持頂くことにより、再現性は確保できます。

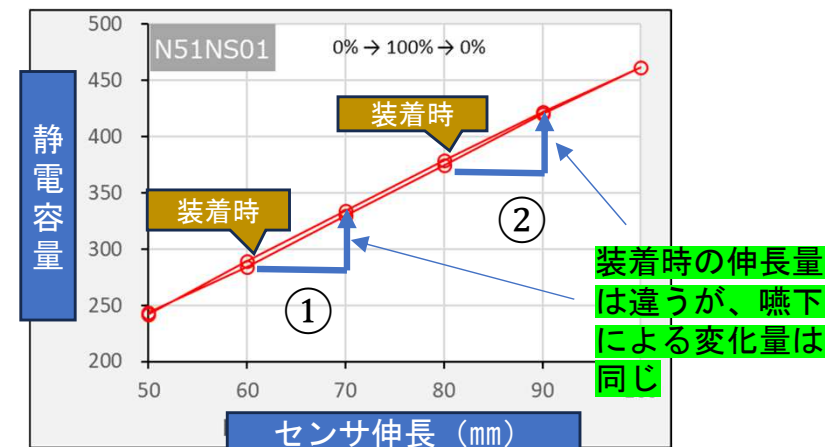


CSセンサの中央部にあたる
3ch又は4chを喉頭隆起の位置に当てるようにする



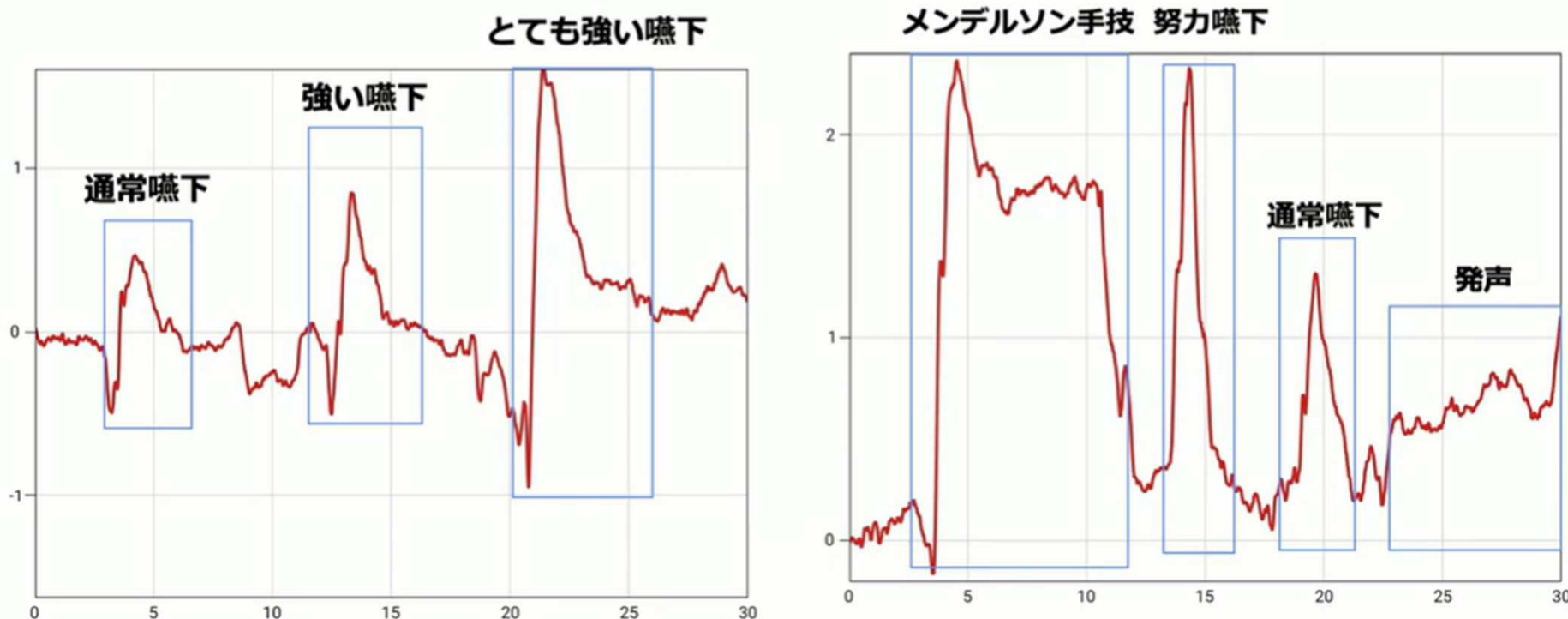
※波形の縦軸は、各センサの伸び波形です。
喉頭の上下運動により、伸縮します。

- センサの伸長量と静電容量(電気的変化)は一次関数(直線)の関係があり、センサ装着時のセンサ伸長量を起点に、嚥下運動に伴うセンサ伸長量を捉え、嚥下回数と嚥下タイミングを判定します。
- 測定者によるセンサ装着時のあて方にてセンサ伸長量差はありますが、装着時のセンサ伸長量からの変化を捉えるため、装着による個人差の影響はありません。
- 但し、波形は装着状態により変わりますので、波形の再現性を求めるためには、センサを同じ位置に装着し測定する必要があります。
(例)センサの当て方により、装着時のセンサの伸び量は、①と②で違いますが、喉頭運動に伴うセンサ伸長量は同じになります。



B4Sトレーニングを使用した訓練

嚥下の強さ, 嚥下手技, 発声などのFB



第25回日本言語聴覚学 ハンスオンセミナー「嚥下運動モニタB4S」の評価と訓練における活用方法と有用性」